

## 「指定ごみ袋」待った！ ホンマのごみ減らしを！

### 市民との対話通じてごみ行政転換 新ごみ処理施設を考える会が見解

明石市は3月15日付けの広報紙で「2年後に指定ごみ袋制」を本格導入することを明らかにしました。「ゼロ・ウェイストあかし」を掲げる市が、ごみ減量効果が薄いと言われる「単純指定ごみ袋」制をなぜ今、導入するのか？ 急速に進展している資源循環社会へ明石市も政策を転換するよう訴えている「新ごみ施設を考える会」が、この施策の問題点について見解を發表しました。

### 「有料指定ごみ袋」導入と、本格的なごみ減量資源化の施策を

#### 疑問1 なぜ、減量効果の低い「単純指定ごみ袋」なのか？

ごみ減量を目的にするなら「単純指定ごみ袋」よりも、袋代にごみ収集手数料を上乗せした「有料指定ごみ袋」の方が減量効果が大きいことは周知のことです。有料化による経済的インセンティブ効果が大きく、各家庭で「ごみの排出には費用が掛かる」ことを経済的に意識するからです。

すでに全国の市区町村の大半が指定ごみ袋制を導入しており、うち約70%は有料指定袋による収集有料化に踏み切っています。資源循環社会へ舵を切っている環境省も、有料化によるごみ減量促進をごみ処理施設建設に伴う補助金交付の条件として強化していることも大きな背景になっています。単純指定袋だとせいぜい10%足らずの減量効果にとどまるが、有料制指定袋の導入によって20%以上の減量効果を得られます。明石市は、なぜ今さら減量効果の低い方策を選ぶのか？ 検討経過を明らかにすべきです。

#### 疑問2 なぜ、事業系ごみを除外するのか？

市の計画では指定袋を使用するのは「燃やせるごみ」だけに限定しています。「燃やせないごみ」や資源ごみ、事業系ごみも対象外です。明石市はこれまでも事業系ごみの減量に取り組むことに消極的なことが目立ちますが、ごみ減量へ全面的に取り組む姿勢を躊躇する理由は何なのか？ 広報紙でも喧伝しているTaco箱（古紙回収）や歯ブラシリサイクル等と同じく「やってる感」を見せつけるだけなのか？ 施策の目的が見えてこない、まるでミステリーというほかありません。

#### 疑問3 なぜ本気でごみ減量に取り組まない？

ごみ減量効果を確実なものにするためには「有料指定ごみ袋」と併せて、プラスチック類、生ごみ、紙類、布類、紙おむつ、剪定枝の分別収集と資源化、地域の資源集団回収活動や「フードドライブ活動」「3010運動」（宴会時のフードロス減らす運動）など市民や事業者の自主的な活動支援を強化し、ごみの発生抑制、排出抑制に関する情報発信を強化する。また、市民の学習活動や市民との対話を促進するなど、ごみ減量への重層的取り組みと仕組みをつくるのが大切です。

### 新ごみ施設の事業費 810億円可決

#### 議会常任委の新年度予算、質疑ゼロ！で承認

新ごみ処理施設の事業費810億円は新年度予算案で債務負担行為810億円が盛り込まれたが、予算を審議した3月14日の生活文化常任委では当該予算案に対する質疑はゼロのまま承認された。

予算審議に先立つ7日の常任委では3人の議員が新施設について20分余り質問したが、今市議会で初めて明らかになった総事業費や財源内訳、市の計画と国の補助金等の見通しなどについては触れなかった。

かがやきネットの宮坂議員は事業者選定に際して地域内経済への貢献等に触れたほか「810億円の議決は議会としても非常に重い。事業費の内容については次回の予算審議で討議するので十分な答弁を期待している」と“予告”していたが、14日の本番審議では今後の進捗状況について毎議会ごとに報告するよう求めただけで、事業費の中身についての質疑はなかった。

# 明石市の「指定ごみ袋」案への疑問

明石市が導入しようとしている「単純指定ごみ袋」導入計画は、抜本的なごみ減量に取り組む姿勢が見られないほか、首をかしげることが幾つもあります。一つは、国も指針で示している「プラスチック削減やCO2排出削減」に対応する姿勢を欠いていること。もう一つは市民参画の手続きの順序が異なることです。

## 疑問4 CO2排出量の少ない指定袋に材質が配慮されているか？

明石市も2050年には温室効果ガス排出量を実質ゼロにすることを目標にしています。「SDGs未来都市」を掲げる市としてもCO2排出を実質ゼロにするのは重要な課題のほうです。

国はごみ焼却におけるCO2排出量削減を進めています。環境省は「地方公共団体におけるバイオプラスチック製ごみ袋」の導入ガイドラインを示しています。明石市が指定袋を導入する際には、当然ながらバイオプラスチック製のごみ袋を採用すべきだと考えますが、そうした方向は検討されていないようです。なぜ、検討の俎上にも上がらなかったのだろうか？

今年1月に閣議決定された「グリーン購入法」6条に基づく「環境物品等の調達の推進に関する基本方針」には、ごみ袋の判断基準として「バイオマスプラスチックであって、環境負荷低減効果が確認されたものがプラスチック重量の25%以上使用されたもの」としています。

## 疑問5 市民参画の手続きを無視するのは、なぜか？

### 市民の協力が不可欠なのに、条例改正後に説明会って？

指定ごみ袋導入について市は右表のようなスケジュールで導入するとしています。

これまでに市民アンケート（1300人）やワークショップ（300人）を行ってきたとしていますが、

条例改正した後に「市民説明会」を開くのは、明らかに順序が違う！のではないのでしょうか？

「市民の市政への参画」を明記した明石市の自治基本条例では「政策等の計画段階から実施、評価、改善に至るそれぞれの段階において、市民が主体的に関わっていく」としています。ごみ問題は日々の暮らしや生業に密接な事柄です。市民や事業者、行政や専門家等が対等の立場で丁寧な対話を重ねることが不可欠です。

指定ごみ袋の導入を計画する段階で市民との対話を重ね、そこで出された意見を踏まえて条例案を検討するのが本来の進め方ではないか？

「ごみから始まるまちづくり」と言います。ごみ行政には、丁寧な市民参画が何よりも大切です。

### 指定袋の導入スケジュール

2025/3-4月/条例改正パブコメ  
2025/6月議会/条例改正提案  
2025/7-2026/3/市民説明会  
2026/9-2027/2/指定袋移行期間  
2027/3 指定ごみ袋本格導入

## 単純指定ごみ袋の導入 ごみ減量に懐疑的意見続出

### 市議会生活文化常任委で4議員が質問

3月7日の市議会生活文化常任委員会では、指定ごみ袋の導入について4人の議員が厳しい質問を浴びせて、収集料を上乘せしない指定袋導入に減量効果の観点から疑問の声を上げた。

自民党の灰野修平議員は「ゼロ・ウェイストと看板は勇ましいが、明石のごみ減量はこれまで緩かった。単純指定袋では8%しか減らないということだが、減量目標とのギャップが大きい。まずは有料化して、目標が達成できれば金額を下げていくなどの方法もある」と促した。

「有料化は現時点では考えていない。検討もしていない。減量目標が達成できないときには、別の方策を考えたい」と答える市に対して、同議員は「ごみゼロの看板を掲げている限りは、より多くの減量化を目指さねばならない。有料化への努力が必要ではないか」と留意意見を付けた。

同議員はまた「市民アンケートを黄門の印籠のように使っているが、市は信念を持って先ずこうしたいという方針を示して、市民と話し合うことが重要だ」とも指摘した。

また、公明党の長尾博子議員は「これまでの減量が進んだのはコロナ禍の影響が大きい。その流れを現在も維持できているのは結構なことだが、今後は増えないとも限らない。有料でない指定袋で減量を進めるには市民に協力を依頼する努力が必要だ」と促した。

市民の会の金尾良信議員や維新の中村茂雄議員もそれぞれ「継続的な広報と啓発努力が必要」「不燃ごみの透明袋による危険性など、安全面についても繰り返し広報・啓発が重要だ」と指摘した。